



2階患者食堂にて

2階食堂の掲示板で患者さんに季節感を感じてもらおう事を目的とし、始めております。9、10月の秋の展示として『食欲の秋』、『味覚の秋』と題して色々な実りある食材を展示し、患者さんから「かわいい」、「自分の家に持って帰りたい」などと喜んでもらっております。

これからも春夏秋冬と移りゆく季節を少しでも感じてもらいながら楽しく食事をして頂く事を目標にし、看護助手一同工夫を凝らしながら継続していきたいと考えております。

看護助手一同



ごあいさつ

杉循環器科内科病院
院長 杉 健三

この4月より、杉循環器科内科病院は心臓血管病の診療体制を大幅に拡充しました。

久留米大学医学部心臓血管内科から専門医の派遣を増員していただき、現在では常勤医として私、江口裕之副院長はじめ5人、非常勤医としては池田久雄教授、上野高史准教授、吉田典子准教授をはじめとする5人をあわせて循環器科は10人体制となりました。設備面では、従来の装置からの更新として64列マルチスライスX線CT装置および最新のデジタル心臓血管造影装置を導入しました。64列X線CT装置は有明地域では2台しか設置されていない画期的な装置です。これを使うことで、これまで心臓カテーテル検査でしか観察できなかった心臓冠動脈の内部の詳細な状態を危険性もほとんどなしに短時間で観察でき、狭心症や心筋梗塞の診断にたいへん有用なものです。外来や人間ドックで手軽に冠動脈病の診断が可能となりました。これで、診療スタッフおよび設備からみても、医療機能の量・質ともに有明地域随一の循環器内科診療体制が整えられたものと自負しております。

大牟田市立総合病院の循環器科の機能縮小にともない当院の循環器病診療の地域における責任が増すこととなったため、久留米大学心臓血管内科はからこれまで以上に全面的かつ密接な支援を受けるとともに同教室主任教授の今泉勉先生のご指導をいただきながら、市立総合病院循環器科が地域医療に果たしていた機能の穴を埋めるべく質の高い医療を365日24時間にわたり提供して行きます。また、既に地域最大の受け入れ能力で患者さんがたに人工透析を行ってきておりましたが、今後もこれまで同様に久留米大学腎臓内科の全面的支援ご指導のもと、循環器内科と共同して質の高い腎臓病・血液透析医療も継続して行きます。副院長の堀内雅彦が呼吸器疾患の診療を、久留米大学消化器内科鳥村拓司准教授のほか2名の体制で肝臓病や消化器病についての専門的医療を、そして久留米大学内分泌代謝内科が当院で糖尿病や内分泌疾患診療を担当しています。しかしながら、どのような病気も罹る前に予防することが大事で、心臓血管病や腎臓病については特にこのことがあてはまります。近年盛んに提唱されているメタボリック症候群の危険性はこのことを言っているのです。そこで、杉循環器科内科病院の設立20周年を記念し、地域の皆様に健康についての認識を高めていただき心臓血管病を予防することでいつまでも健康で充実した人生を送っていただくお手伝いができればとの思いから、メタボリック症候群および心臓血管病についての「市民公開健康フォーラム」なる講演会を企画しました。当院の全職種、全職員が全力をあげて準備を致しました。さいわい、大牟田市のウェルネス事業の一環として大牟田市の後援をいただくことができ、また、たくさんの地元の団体・組織の皆様からは厚いご支援をいただいたことを大いに感謝致しております。この講演会が一人でも多くの皆様の健康づくりのお役に立てたら幸いです。杉循環器科内科病院は、これまで同様に内科系救急病院として職員一丸となって診療を行ってゆくことで地域に貢献して行きます。

謝 辞

ウエルネスおおいたの健康事業
杉循環器科内科病院開院20周年記念 市民公開フォーラム

**心臓血管病は
メタボリック
シンドロームから。**
狭心症や心筋梗塞に負けないために。

8月17日(日)
大牟田文化会館
大ホール

講演 第一部 12:00～12:45
「心臓病 新しい診断と治療」
～治療の現場をビデオで見せます～
久留米大学医学部 心臓・血管内科
准教授 上野高史先生

講演 第二部 14:00～14:45
「メタボリックシンドローム」
～ならない・自覚ない・治療もない～
久留米大学健康センター 循環器内科
科長 池田久雄先生

健康美容・相談コーナーを
特設します。

11:00～12:50
(第一部講演後)

15:00～16:00
(第二部講演後)

会場 無料 当日は各自で各自の自由にお座りできます。
(座席指定は受付順とさせていただきます)

主 催 杉循環器科内科病院
〒840-0244 大牟田市大字松原908-1 (3階) 302号室
TEL:0946-56-1119 E-mail:info@sagi-hoop.jp

協 賛 大牟田市



開院20周年記念市民公開健康フォーラム

杉循環器科内科病院 開院20周年記念 「市民公開健康フォーラム」 実行委員長 関坂 亨



さる、8月17日(日)開催の、大牟田文化会館での杉循環器科内科病院 開院20周年記念市民公開健康フォーラムは、1400名にも迫る地域の方々のご参加をいただき、成功りに終了することが出来ました。これもひとえに皆様のご協力のおかげと感謝をいたし、心よりお礼を申し上げます。

この度の市民公開健康フォーラムでは「メタボリックシンドローム」と「心臓血管病」このふたつのキーワードを柱とし「メタボリックシンドロームってたいしたことないと思いませんか？」狭心症や心筋梗塞に負けないために・・・と題して、全国のご講演や新聞等で著名人との対談経験もお持ちの先生方に、大牟田市でのご講話を御願いし大変お忙しいスケジュールの中、快くお引き受けいただき実現させることができました。

講演第一部、久留米大学医学部 心臓・血管内科准教授 上野高史先生「心臓病新しい診断と治療 ～治療の現場をビデオで見せます～」では、ビデオで狭心症の患者さんを最新のカテーテル技術で治療する様子を見せていただき、一般の方へは本邦初公開であるという血管の中をのぞくことができるカメラの大変貴重な映像もまじえ、「動脈硬化は治療と健康管理によって改善することができる」と、お話しいただきました。また、その心臓血管の動脈硬化の早期発見は、最



新鋭の64列マルチスライスCT撮影装置で可能であるとも紹介されました。

講演第二部、久留米大学医療センター 循環器科教授 池田久雄先生「メタボリックシンドローム ～ならない・させない・あきらめない～」では、カロリー制限や運動による内臓の脂肪を減らす肥満予防の大切さを、メタボは現代人の大きな過ちと強調されながらわかりやすく説明いただき「21世紀は肥満を予防する時代である」と、当院でもご自身が開設されている、メタボリック外来の話題を交えてお話しいただきました。両講演で会場いっぱい熱心に聞き入られた参加者の方々は、健康についての意識を高めていただけた事と思います。翌日より寄せられた「64列マルチスライスCT撮影装置」や「メタボリック外来」への問い合わせの多さからも健康への関心の高さが伺えます。

今回、市民健康フォーラムを大牟田文化会館の大ホールにて主催するにあたりましては、なにより広報活動に関して大変多くの方々にお力添えを頂きました。一方、企画・運営、総合司会をはじめ、体操ブレイクを含めた講演の舞台構成、各種専門職による健康特設コーナー、会場の受付、さらに館外での駐車場の確保・整理と、全てを職員にて組織・運営致しました。この手作りの開院20周年記念 市民公開健康フォーラムが、当院の理念にも掲げる院長はじめ職員の思いでもある「地域への貢献」ということをかたちに出来ていたら幸いです。

最後になりましたが、上内の境米店様より、参加頂いた方の安全・安心な食への動機づけにと、上内産「低グルテリン米 春陽」1kg・1000袋のご提供を頂きましたのをはじめ、地域の団体様からの親身なご協力を頂くことで、盛会にて開催することができました。このようにお世話になりました多くの皆様方、ならびにご参加を頂きましたお一人おひとりに、あらためて心より感謝を申し上げます。至らぬ実行委員長でありながら、職員スタッフに助けられ無事勤めることができたことは、ひとえに皆様方のお力添えの賜物と存じ、深く感謝いたしております。

本当にありがとうございました。



新しい心臓・血管造影装置の導入

久留米大学 心臓血管内科
准教授 上野 高史

私たちの心臓は1日に約十萬回という驚くほどの拍動を繰り返し、体中に血液を送り出すポンプとして仕事をしています。このためには心臓自身にも酸素や栄養分が必要となり、心臓表面にある冠(状)動脈という血管が血液として栄養分を送り込んでいます。人間は年をとれば当然動脈硬化が起こりますが、冠動脈は他の血管に比べ動脈硬化が起こりやすいことがわかっています。

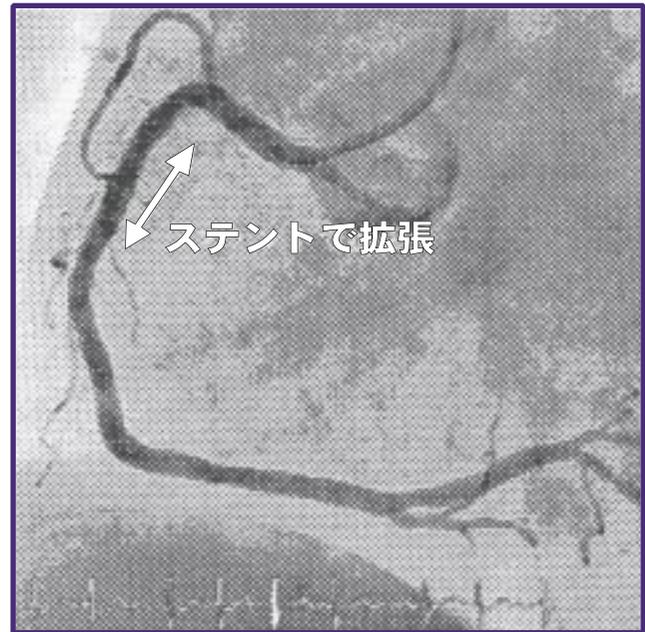
さらに冠危険因子と呼ばれる喫煙、高血圧、高脂血症や糖尿病が存在するとさらに早く動脈硬化が進行してしまいます。最近の日本では食生活の欧米化や車社会の普及による運動不足などで冠危険因子はさらに増え、いわゆるメタボリック症候群が増えています。その結果、冠動脈硬化が原因である虚血性心臓病は益々増えてきています。虚血性心臓病の代表は狭心症と心筋梗塞が知られています。狭心症や心筋梗塞の診断や治療では冠動脈の状態を正確に評価する必要があります。

3本ある冠動脈のうち、どの血管のどの部分が狭いか、またはつまっているかを観察し、その状態に合わせて薬で治療するのか、風船やステントと呼ばれる金属製の筒で治療するのかなどを判断します。

特に突然死の危険性の高い急性心筋梗塞ではつまった血管を1分1秒でも早く開通



(治療前)



(ステント治療後)

左図の白矢印部分の狭かった冠動脈により狭心症を起こしていた患者さん。右図のステント治療により狭い部分はきれいになっているところが血管造影ではっきりわかる。

させてやることは、命を救うだけでなく、回復後の社会復帰にも影響を及ぼします。

平成9年に当院では心臓・血管造影検査を始めました。この装置は最も小型の撮影装置で日本における本格的な導入の第1号機でした。この撮影装置によって当院ではこれまでに100名を超す心筋梗塞の方を治療しましたが、さすがに古くなってきたため今回シーメンス社製の最新鋭の血管造影装置に更新いたしました。

医学の進歩は日進月歩で、最近の血管造影に使用するカテーテルという管は手首の動脈から安全に入るくらい細くなってきました。そのおかげで検査中に痛みを感じるのは局所麻酔の注射のときくらいで、昔に比べるとずいぶん楽になってきました。当院ではこの血管造影装置と同時に造影剤の点滴で冠動脈の状態が把握できる最新鋭のCT撮影装置も導入しました。

このCT検査で冠状動脈が正常である結果が出れば血管造影を行う必要はなくなり、疑わしい結果である方のみが血管造影検査をすることになります。

当院では患者さんにとって最小限の負担で安全にかつ効率よく、そして正確な診断と適切な治療が行えるように今後とも努めていく所存です。

64列マルチスライスCT導入

杉循環器科内科病院
副院長 江口 裕之

当院では今回(2008年7月より)、最新の64列マルチスライスCT(東芝メディカルシステムズ社製、Aquilion64)を導入しました。

このマルチスライスCTは従来のCTと異なり高速で一度に最大64枚の断層像撮影が可能な最新鋭CTであり、これによりこれまで心臓自体の動きのために描出が困難であった冠動脈の狭窄や動脈硬化による冠動脈壁の石灰化を正確に描出することが可能となりました。

現在狭心症や心筋梗塞など冠動脈疾患の診断に最も信頼できる検査方法として心臓カテーテルが用いられますが、手や足の動脈からカテーテルを挿入して行う侵襲的な検査のため、入院を要し、少数例ながらカテーテル操作に伴う合併症や出血などの問題があります。しかしCT検査であ



れば造影剤は静脈からの注射だけですみますし、検査にかかる時間も短い(実際撮影する時間は10秒以下)ため外来での検査が可能で、心臓カテーテル検査に比べて負担が小さいのが特徴です。これまで冠動脈造影のために入院をためらっていた人にも安全・迅速かつ安価に冠動脈の検査が施行できます。

この検査で冠動脈病変が疑われた場合は、確定診断や治療方針(薬物治療、冠動脈形成術、バイパス手術など)決定のために冠動脈造影検査で精密に調べ、さらに冠動脈形成術治療も同時に行うことが可能となります。胸痛や胸の圧迫感、不快感を感じるなど、心臓の病気が気になる方は是非ご相談ください。

造影剤アレルギーのある方、頻脈や不整脈がある方、高度な腎機能障害がある方は検査できない場合があります。また冠動脈にステントや高度の石灰化がある場合、血管内の描出が不明瞭になることがあります。

詳しくは担当医にお尋ねください。



医療機器管理室 臨床工学技士 大塚 紹

近年の医療環境において医療機器が使用される頻度は高く、治療を行うために必要不可欠です。また、医療技術の発展と共に医療機器は進化しており、それに伴うトラブルも多くなってきています。このような背景の中、院内において、医療機器を管理することが義務付けられています。

『医療機器管理』とは、医療機器を有効に使用できるよう、また安全性を確保することです。ここでいう医療機器は、医療現場における治療を行う、また診断を補助する医療器具のことを指します。

昨年度4月より施行された改正医療法において、

- ①医療機器の安全使用のための責任者の配置(医療機器管理責任者)
- ②従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施
- ③医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検
- ④医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集

を行うことが義務付けられ、医療機器の安全管理のための対策が具体的に強化されました。

当院では、平成18年10月に医療機器管理室が立ち上がり、医療機器専門職である私達、臨床工学技士が院内にある医療機器を管理しています(平成20年9月現在33機種・160台)。医療機器を安全に使用するには、機器の保守点検・定期的な部品交換が必要です。車の車検を行うように医療機器も定期的に点検や部品交換を行わなければなりません。当院では、コンピューターを使用し、機器管理プログラムを用いて医療機器の購入から廃棄までの管理を行っています。患者さんにカルテがあるように、個々の医療機器ごとに“機器カルテ”を作成し、そこに機器の情報や保守点検記録、修理履歴をファイルし保管しています。カルテを見れば各機器すべての情報がわかるようにしています。また、保守点検に関する計画を立て、それに基づいて点検や定期的な部品交換を実施しています。

院内で医療機器管理を行う上で最も重要なことは、各部署と連携を持つことです。医療機器の管理する上において院内スタッフの協力が必要となります。統括的な管理が出来ない限り、患者さんへ包括的な医療を提供することはできないと考えています。医療機器の安全性を確保することで医療スタッフ延いては患者さんへ安心感の提供に貢献できるよう、また、より良い医療が提供できるようこれからも取組み、医療機器管理システムを充実させていきたいと思っております。



医療機器管理プログラム



機器カルテ



修理・点検伝票

NST(栄養サポートチーム)



栄養室室長
管理栄養士 塚崎 加代子

当院では、今年3月より「NST(栄養サポートチーム)」を発足させました。入院中の患者さんはさまざまな原因により、口から食べ物が摂れないあるいは、食べる量が減ってきたなどという事が起きます。NSTとはそのような患者さんに対して、その原因や栄養状態を把握し、多岐にわたる専門スタッフが連携し、適切な栄養を提供していこうという医療チームの事です。

当院でのNSTメンバーは病態を管理する医師を中心に、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、事務などの各専門スタッフがそれぞれの知識や技術を出し合い最良の方法で栄養支援できるよう活動しています。月に1回、院内にて栄養勉強会を行ったり、院外の研修会に参加したりNSTメンバーの知識向上に努め、皆様のお役に立てるように日々研鑽しています。

食事に関する疑問点や、不安な事、相談したいことがありましたらお気軽に声をおかけ下さい。

透析食・糖尿病食レシピ

栄養室
管理栄養士 山下 裕子

ごぼうは食物繊維が豊富なため、便秘解消のほかに、塩分などを体の外に排出する働きがあります。また、糖の吸収を遅くするため、食後の急激な血糖値の上昇を防ぐことができます。

今回は、ごぼうを使ったメニューを紹介します。



透析食 さつま揚げ

糖尿病食 さつま焼き

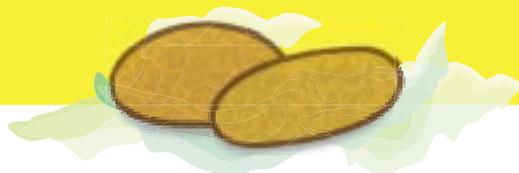
△▽△▽△▽△▽ 栄養成分 1人分あたり ▽△▽△▽△▽△

さつま焼き

約130kcal タンパク質 14.0g カリウム 360mg 食塩 0.4g 食物繊維 1.0g

さつま揚げ

約190kcal 他 さつま焼きと同じ



材料 4人分

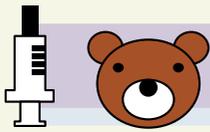
- いわしすり身 240g
- ごぼう 40g
- にんじん 40g
- しょうが汁 少々
- カレー粉 小さじ 1/3
- 酒 大さじ 1/2
- 濃口醤油 大さじ 1
- 砂糖 小さじ 1/3
- たまご 1/2
- 片栗粉 大さじ 1

作り方

- (1).にんじんは千切り、ごぼうはさがきにします。
- (2).材料を全部混ぜ合わせ、形を整えます。
- (3).さつま焼き・・・油を少量ひき、中火で中までしっかりと焼きます。
さつま揚げ・・・きつね色になるまで油で揚げます。



透析食の場合は付け合せも工夫しましょう。生野菜ではなく茹で野菜にする、塩分過剰を防ぐためにレモンを添えるなど、好みにあわせて選びましょう。



New Face



氏名:影林 美佐緒

出身:大牟田市

部署:看護部

趣味:“趣味”ではありませんが、最近「篤姫」にすごくはまっています。

抱負:杉病院が大牟田で一番ハートフルな病院になるよう努力します。



氏名:松本 紗代子

出身:大牟田市

部署:看護部

趣味:買い物・ドライブ・温泉
抱負:循環器病棟は未経験なので、患者さんとの関わりの中で色々な事を学びたいです。元気に頑張ります。



氏名:岡崎 千絵

出身:長州町

部署:看護部

趣味:寝ること・ドライブ

抱負:いずれ循環器看護をマスター出来るように頑張りたいと思います。



氏名:鹿毛 幸子

出身:大牟田市

部署:薬剤室

趣味:スポーツ観戦

抱負:長い経験と循環器科薬剤師としての自覚を持ち、自己研鑽に努めますので宜しくお願いします。



氏名:川野 里佳

出身:宮崎県

部署:看護部

趣味:バレーボール

抱負:笑顔で元よく頑張りたいと思います。よろしくをお願いします。



氏名:江口 智里

出身:佐賀県

部署:リハビリテーション室

趣味:読書、ショッピング

抱負:一度きりの人生なので、仕事と子育てを両立させ充実した毎日を過ごしていきたいと思います。



氏名:河野 美由希

出身:みやま市

部署:看護部

趣味:音楽鑑賞、映画鑑賞

抱負:日々、一生懸命業務に取り組みます。



氏名:塚崎 加代子

出身:大牟田市

部署:栄養室

趣味:旅行、テニス

抱負:早くみなさんの力になれるように頑張ります。



氏名:安井 智香

出身:大牟田市

部署:看護部

趣味:読書

抱負:日々、色々な事を学んでいきたいと思っています。よろしくをお願いします。



氏名:藤吉 亜有美

出身:みやま市

部署:検査室

趣味:DVD鑑賞

抱負:慣れないことが多く、色々迷惑ばかりかけている毎日ですが、早く一人前に仕事ができるように勉強に励んでいきたいと思っています。よろしくをお願いします。



子育て支援会より

事務室 田中 博恵

5月18日(日)子育て支援会より『親子ふれあい体験』として鍋松原海水浴場へ潮干狩りに行って来ました。

今回は現地集合、現地解散でしたが大人16名、子供25名計41名の参加がありました。潮が引くまでの間お弁当を食べたり、くじ引きゲームをしたりして楽しみました。

子供たちは、潮が引くと海へ駆け出して行き、貝掘りをしながらカニやヤドカリ等を見つけて楽しんでいました。

天候を心配していましたが、晴天にも恵まれ帰る頃には子供たちも真っ黒に日焼けしていました。日頃、ゆっくりと子供と遊ぶ機会が持てない親にとっても楽しい親子ふれあい体験となりました。



第6回 大牟田医師会看護専門学校同窓会主催 ビーチバレーボール大会に参加して

看護部 牟田 貴子

5月17日(土)大牟田市民体育館で大牟田市内の病院・施設のチーム計46チームが参加して開かれました。

当院からは、男女計10名2チームで参加しました。今年は1部リーグ(男性チーム)・2部リーグ(初心者混合チーム・女子チーム)に分かれ行なわれました。2チームとも2部リーグで出場し、内1チーム(初心者混合チーム)は3位に輝くことが出来ました。チームプレーを活かし、練習の成果を発揮することができたと思います。

今後も優勝できるよう練習を重ねていきたいと思います。応援、よろしくお願いします。



【ソフトボール活動報告】

事務室 徳永 修一郎

今年は新入部員3名を迎え、計20名の部員で活動を行っています。また創部5年目にして、今年5月に開催された第39回大牟田市教育委員会杯大会においては、ついに念願の初優勝を飾る事ができました！！

現在は、いい人材に恵まれており攻守共に着実に戦力アップしています！

チームメイト間の団結力もしっかりしており、楽しくやっています。これからも常にいい結果がだせるように頑張っていきたいと思っていますので、応援の方もよろしくお願いします。



 杉循環器科内科病院

〒837-0916 大牟田市大字田隈950-1(誠修高校前)
TEL (0944) 56-1119 FAX (0944) 56-2077
E-mail: info@sugi-hosp.jp URL <http://www.sugi-hosp.jp>